

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071300432		
法人名	社会福祉法人 愛光園		
事業所名(ユニット名)	愛光園グループホーム		
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野1401-2		
自己評価作成日	平成23年10月28日	評価結果市町村受理日	平成23年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokouhou.jp/kaisoip/infomationPublic.do?JCD=3071300432&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成23年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者1人1人の生活ペースを大切にしています。 協力医療機関の医師は認知症に詳しく、医師と連携を密にして穏やかに過ごして頂けるよう支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、のどかな田園地域にある4階建て法人施設の最上階にあり、眼下に雄大な紀の川の流れを臨むことができます。屋上等に菜園があり、農業の経験がある利用者の指導で四季折々の野菜作りを楽しんでいる。エレベーターを使わないと外に出ることが出来ないため地域とのつながりが少なくなる等立地的には厳しい条件にありながらも保育所等との交流を進めたりして工夫しており、前向きな姿勢は評価できる。また協力医が認知症に詳しいこともあり適切な医療を受けることができるため安心して過ごすことができている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域生活へ参加し、地域と共に生活するという意味の「地参地生」という理念を掲げ、地域社会で孤立することなく生活できるようにしている。	「地産地消」(ちさんちしょう)という言葉をもじって、地域との関わりを大切にする『地参地生』(ちさんちしょう)という理念を職員で作り上げた。しかしその理念を皆で共有し日々のケアに活かしていくという認識、意識付けが十分でない。	理念を掲示したり、ミーティング等でことある毎に話題にのせ職員間の意識を高められることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な近所付き合いはほとんどない。毎月、地域のサロン事業に参加したり、祭りの時などには見に行く程度。	法人施設の4階部分でなかなか地域との関わりが持ちにくいなか、知り合いの保育士と連携を取り、交流会をもっている。その際、利用者が針仕事で作った雑巾を保育所にプレゼントしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者がキャラバンメイトとして、認知症サポーター養成講座を行い、地域の方への認知症理解を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近ほとんど開催できていない。今月ようやく開催できた。	開催は同法人の第2グループホーム(2ユニット)との共催であるがほとんど開催されていない。前は1年前である。	家族や地域の理解と支援を得るため、また事業所のサービス向上のためにも年に複数回開催される事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が、地域ケア会議への参加や入居者の事で社会福祉協議会の相談支援員に相談したりと、接する機会が多いので少しずつ関係構築に向けて取り組んでいる。	地域ケア会議に参加したり、利用者の事で行政に相談する等、ひんぱんに顔を合わせる機会を持ち積極的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は安全上の理由と法人からの指導により施錠している。身体拘束について職員が全員正しく理解はしていない。	4階部分からは通常エレベーターを使っている出入りとなっている為、安全面から利用者が操作できないように設定されている。職員は拘束に繋がると理解はしているが、母体法人からは安全上、施錠の指導を受けている。	抑圧感のない自由な暮らしを提供するために安全へのリスク等について家族や職員間で話し合いを重ねていく事が望まれる。また利用者の人権尊重のため、身体拘束の内容やその弊害をしっかりと身につけるよう研修等の開催を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者権利擁護推進員研修を受けるなどしているが、他のスタッフは機会がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、入居者に生活保護受給者がいることもあり、権利擁護に関する制度について学ぶ機会が多いが、他のスタッフはあまりない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には、十分説明している。疑問などがあれば再度説明を行い、理解していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは運営推進会議や家族会、また面会時等に要望を聞くようにしている。 入居者からは日々の生活の中で直接訴えがあったり、職員が気付いた事を反映させるようにしている。	家族からは面会時などに来るだけ要望を伺うようにしている。さらに匿名アンケート等を取り、忌憚のない意見をいただけるよう配慮し運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを開き、その中で意見を聞き、精査した上で反映させている。	月1回の職員会議にてテーマを作り、様々な意見を出してもらい運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約職員が大半を占めているので、勤務表を作成する際には出来るだけ、他のスタッフと差が生じないように心がけている。有給休暇も希望があればできるだけ取得していたるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアにおいて気付いた点は指導するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は殆どない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には直接ご本人と面談し、要望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決定した段階で、家族さんから聞き取りを行い、家庭で困っていた事などを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りを行った時に、他のサービスが必要である場合は法人の別のサービスの利用が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が得意としている事は主役となれる場面と考え、職員も一緒に教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭内行事への参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた医院や近所のスーパー、美容院などへ入居後も継続して行っていただける様にしている。	馴染みの医者への通院や美容院、スーパーで買い物をする等、地域社会との関係が途切れないよう配慮し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で入居者同士の関係性を把握し、喧嘩などを未然に防ぐよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には(殆どが特養への転居)退居先へ生活状況などを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や気の合うスタッフが会話の中の些細な事を聞き取る事で把握に努めている。	比較的意思疎通は取れており、会話の中から思いや意向を把握できている。また困難な場合にも、例えばエレベーターの前に行こうとする方は買い物に行きたいのではないかなど、サインを見逃さないようにして思いを受け止めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報収集したり、直接本人から聞き取る事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアで気付いた事等を介護記録、連絡帳などに記録し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングを行い、ケアの方向を決めその上で家族に説明し同意を得るようにしている。分からないことは同法人内の他の専門職に相談している。	面会時に家族の意見や要望を聞き、職員会議にて意見を出しあって介護計画を作成している。また必要に応じて法人内の介護課長、生活相談員、看護師等からも意見をもらい介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別に介護記録を作成し、細かい事を記入するようにしている。その内容を参考に介護計画を作成するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自事業所に対応できないことは、他の事業所や医療機関と連携し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から通っているかかりつけ医がいるのであれば、入居後も継続して受診できるようにしている。	馴染みの医療機関を継続的に受診できるよう支援している。受診は原則家族が付き添っているが、家族が遠方に住んでいる場合は職員が付き添っており、情報の共有が出来るよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関のクリニックの看護師に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の連携室と連絡を取り合い情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアなどについては指針をまとめ、家族に説明をし相談の上で方針を決めている。	入居時“看取りに関する指針”を渡し、事業所が対応できるケアについて話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には主治医に連絡し、指示を仰ぐようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いでの防火避難訓練を定期的に実施してる。 地域との協力体制の構築は出来ていない。	年2回法人と合同で防火避難訓練を行っている。	夜間対応の避難訓練を事業所単独においても実施すること、及び、地域との協力関係を築かれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者各個人のプライバシーが守られるよう、言葉掛けや対応には十分注意している。	利用者同士で揶揄するようなあからさまな言動が気になる事例があり苦慮している。尊厳と権利を守るということに対して職員の対応やその姿勢にやや弱い部分が見受けられた。	利用者同士に対する職員の対応、言葉遣いも含めての研修会の開催を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で選択する機会を増やし、入居者自らが決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人1人の生活パターンを把握した上で本人のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を購入する際には、一緒に行き、着たい物、買いたい物を購入していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方と一緒に食事の準備から片付けまで行っています。	利用者が職員と共に談笑しながら昼食の後片づけや夕食の準備を行っている。食事作りについて、職員は利用者の力を発揮するポイントと捉えており、食事介助も含め声かけや雰囲気づくりに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の栄養士が作成したものを使用している。日や内容によっては変更している。 水分摂取量は必要であればチェック表を作り、水分量が確保出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行いして頂いている。 介助が必要な方には職員と一緒にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、パターンを知ること で声掛け、誘導等必要な介助を行っています。	利用者の排泄の自立に向け、一人ひとりの 排泄チェック表を作り、自尊心に配慮したトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現在は服薬にてコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望に沿って入浴して いただけるようにしている。	入浴拒否する方もおられるので臨機応変に1 時30分～4時くらいの間で順番を変えたりし ながら入浴を楽しめるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間帯は声掛け等を控えています。 夜間の睡眠を確保するために眠剤をしよう している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はホームで管理し、服薬時に手渡すよう にしている。薬剤情報はファイルいつでも 見られるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の役割が出来つつあり、それを こなして頂いています。買物による外出や、 嗜好品を楽しむ事で気分転換を図ってい ます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人から希望があれば都度外出するよう にしている。また、各家族での行事には参加 させてもらえるよう話し協力をお願いしてい る。	一人ひとりの希望にそって近くのスーパー、 美容院等、徒歩圏内にある場所等に出かけ ている。誕生日、正月、お盆、法事等家族が 行う行事に極力参加できるよう協力を呼びか けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には、現金を所持していただいているが、殆どはグループホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいと希望があった時は都度、かけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1年間の改善項目として、空間作りをテーマに考えてきましたが、カーテンの色を変えたことと、壁に絵を飾りました。全体的にはあまり空間作りできなかった。	カーテンの色を統一感のある落ち着いたものに変えたり、それぞれの居室の入り口に手作りのクラフトが飾られており工夫の跡が見られる。音、光、におい、温度等利用者にとって居心地よく過ごせるよう整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂が共用スペースであり、2ヶ所にソファを配置し気のあった入居者同士で過ごせるようにしているが、独りになれる場所は居室以外ない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、その方が使い慣れた物を持ってきて頂いている。新たに購入する物でもその方が気に入った物を購入するようにしている。	居室はぬいぐるみや手作りのカレンダー等で飾られており、ベッドは備え付けだが布団はそれぞれ持参していただいたものを使用するなど安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチン是对面式のオープンキッチンになっており、作っているものが一目で分かるようになっている。IHヒーターを使用しており安全に調理出来るようになっている。		